# Ａ　話すこと・聞くこと部会　令和元年度の研究の方向

話すこと・聞くこと部会部長　恵那市立恵那東中学校　小島　光太郎

## １　今年度の研究の方向

令和元年度　中国研　研究主題

**生きてはたらく言語能力の育成**

**～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～**

目指す生徒の姿

◎言語活動に魅力を感じながら、学習の意義を自覚して見通しをもち、主体的に学ぶ姿
◎目的や場面に応じて、適切に話したり聞いたり話し合ったりすることで、言語能力を身に付ける姿
◎自己の姿をメタ認知しながら、変容や学びの深まり、学んだことを自覚し、さらに別の場で生かそうとする姿

令和元年度　「話すこと・聞くこと」部会　研究主題

**目的や場面に応じて適切に表現する能力の育成**

**～目指す生徒の姿の具体化と、効果的な評価の在り方～**

研究仮説

・言語活動を通して生徒にどのような力を身に付けさせるのかを具体化して描き、学習する意義を生徒に理解させながら見通しをもって学習させることで、生徒は目的や場面に応じて適切に表現する力を身に付けるであろう。
・さらに生徒自身が自己の変容や学びの深まりを自覚するような評価の工夫を行い、次の指導に生かすことで、生徒自身が言語能力の高まりを実感し、別の場でも学びを生かそうとするであろう。

### （１）指導計画の工夫

**①「生きてはたらく言語能力」の更なる明確化と、岐阜県全域における「中国研ホームページを活用した情報共有」の推進**

・指導計画の段階で、指導事項と照らし合わせながら言語活動の完成形をより具体的に描く。
・その中で生徒に「付けたい能力」を身に付けさせるために、どのような姿が見られたらよいのかという具体的な姿を明確にする。（黒板写真・授業資料の共有）

**②学ぶ魅力・必然性のある教材開発**

・「話したい」、「聞きたい」と思うような魅力あるテーマ設定を考える。同時に「話し合わなければいけない」といった必然あるテーマについても考えていく。

### （２）指導・援助の工夫

**①生徒が「主体的・対話的で深い学び」を獲得するための指導の工夫**

・課題化までに、必然を感じさせるような効果的な導入の工夫をする。
・効果的なモデル提示の在り方を工夫する。

**②「どの子」にも「生きてはたらく言語能力」を身に付けるための手だての工夫**

・うまくできない生徒ができるようになるための「苦手を克服するための手立て」はもちろん、得意な生徒がさらに上のレベルを目指せるようにするための「得意を伸ばす手立て」も考える。

### （３）評価の工夫

**生徒自身が５０分間での自己の高まりを実感することができる場の位置付け**

①学習活動の中での自己の姿を客観的に知り、評価できるような音声言語教育の評価の在り方を工夫する。（ビデオカメラや IC レコーダー、タブレットといった機器の効果的な活用）
②生徒の習熟度を効果的に評価する「場」と「方法」を工夫する。

## ２．昨年度までの成果と課題

昨年度の実践を通して、次のような成果と課題が見えてきた。

**昨年度の実践の成果と課題**

○「必然のある言語活動の設定」を副主題に掲げ、生徒が話したり、聞いたり、話し合ったりする必然のあるテーマ設定を工夫することができた。

○「目指す姿の具体化」が多くの実践の中でなされていた。「目的や場面に応じて適切に表現する」姿を、「学習指導要領の指導事項」→「学習指導要領の解説」→「目指す姿」というような順序で具体化されていた。

○上記の成果によって、生徒が話したり聞いたり話し合ったりすることに対して必要感をもちながら、主体的に学習に取り組む姿が多く見られた。

●「目指す姿の具体化」を行ったが、それを適切に評価することの必要性と難しさを感じた。いつ評価するのか、どのような方法を用いて評価するのかということが十分明確にできなかった。

## ３．主題設定の理由

主題にある「目的や場面に応じて」という文言は、中学校学習指導要領の「A 話すこと・聞くこと（1）ア」の中で３学年に渡って用いられている言葉であり、「話すこと・聞くこと」の指導の中では特に重要な事項であると考えられる。「何のために、誰を対象に、どのような状況で」話すのか、それによって話す内容や方法など最も適切なものを選択することが求められている。今年度も「話すこと・聞くこと」では、基本的な力を身に付けさせることを念頭に置き、「表現」に重点を置いて「目的や場面に応じて適切に表現する能力の育成」について研究を深めていきたい。

昨年度は、副主題に「必然のある言語活動の設定と、目指す生徒の姿の具体化」を掲げた。そして、生徒にとって「話す」「話し合う」必然のあるテーマの設定が工夫され、主体的に活動する生徒の姿が多く見られた。同様に、言語活動を通して生徒がどのような姿になればよいのかという「目指す姿」も具体化することができ、より焦点的な指導ができることが増えた。

今年度はそのような成果を大切にして研究を継続しながら「評価」についても考えられるようにしたい。いつ評価するのか、誰が評価するのか、どのような方法で評価するのか、これらのことを考えながら評価の工夫をすることで、効果的な評価の在り方について研究を深めていきたい。そしてそれが、最終的には生徒の学びに還元され、生徒がさらに言語能力を高めていくことにつないでいきたい。

## ４　研究計画　（日程が変更する場合があります）

| 時　期 | 会合名等 | 具体的な内容 |
|---|---|---|
| １学期 | □第１回研究部総会<br>５月２７日（月）<br>場所：岐阜市教育研究所<br>○第１回「話すこと・聞くこと部会」 | ○「話すこと聞くこと」部会の顔合わせ<br>○今年度の研究の方向について（研究構想の確認）<br>○岐阜県中国研における「中国研ホームページを活用した情報共有」２年次の役割分担<br>○「ぎふこくご」紀要原稿執筆者の決定 |
| 夏休み | □第１回「明日の授業を考える会」<br>８月６日（火）　場所：一之宮公民館<br>○第２回「話すこと・聞くこと部会」 | ○午後：「飛騨地区中学校国語科研究協議会　夏季統一研究会」 |
| | □中国研夏季ゼミナール<br>８月１９日（月）<br>場所：岐阜市中央図書館 | ○岐阜大学教育学部国語教育講座　山田敏弘先生を招いての講演 |
| ２学期 | □第２回「明日の授業を考える会」<br>１２月下旬　場所：未定<br>○第３回「話すこと・聞くこと部会」 | ○授実践業・実践提案の振り返り<br>○来年度に向けて |
| ３学期 | □第２回研究部総会<br>２月中旬～下旬　場所：未定<br>○第４回「話すこと・聞くこと部会」 | □一年間の研究の振り返り及び次年度の研究構想の検討<br>□来年度の研究部員継続のお願いと確認<br>□「ぎふこくご」の配付による研究報告 |